とんからりん
月刊サカタニ友の会ニュース

発行（株）サカタニ
集酉楽・サカタニ
ファミリーマート
サカタニ京阪七条店
〒605-0993　京・
東山区七条こころ坂下
℡・075-561-7974
URLwwwそのw.sosake.jp/
Eメール・info@sosake.jp
編集・酒谷義郎

1913大2～
2013平25

祝・七条大橋百周年

記念橋渡り
あゆむ会
4/14

大正2年（1912）4月14日・午前10時山なりの人々が見物する中で「七条大橋」の開通式が挙行された。橋は当時京都3大事業の一つ市電を走らせるに耐える強固な橋として鉄筋コンクリートでアーチ型が採用され、明治45年から17ヶ月かけて完成した。今は形状が代わっている四条大橋（左の写真）も同時に造られた。四条は昭和の2度の洪水で造り変えられ、明治時代の姿を残している橋は「七条大橋」だけになっている。歴史的価値を日本土木学会は『七条大橋を土木遺産』と認定している。

今年の4月14日「鴨川を百年見つめる七条大橋とあゆむ会：発足準備会」が集

（写真）露払い役の編集者は、市長に橋の歩道部の状態や汚れについて説明した。

酉楽サカタニで開かれ、各方面からの祝辞が届いた。全く予定をしていなかったが、門川京都市長がご参加下さり祝辞後の「百年目の橋渡り」にも参加者一同と共に『百年前の渡初め』と同様、橋を西から東に渡って下さった。

橋渡り終了後、「鴨川を百年見つめる七条大橋とあゆむ会』に当日5百円の会費を納入された会員で総会を開き、「会則」が承認され、役員も決定した。

そして秋に地域の色々な方々の力を合わせて「橋の百年を祝う大イベント」と橋を京都市重要文化財に指定・橋の姿を復元させるように会員を増やし多くの人々の力を集めて運動をすることなどが決まった。日本初の鉄筋コンクリートのアーチ橋に感謝を込めて。

第百回：朝粥食べておシャベリ会

この『朝粥会』は平成17年2月から始めたもの。

最初は、一人淋しく食事をされている老人が多い地域なので、たまには集まって「お粥」でも食べておしゃべりされたら良いと店舗改装で造ったホールで催した。数回で終わりと思っていたが参加者が増え毎月第3日曜を定例にして、食前に「お話や音楽を聞く」今の形になった。講師の方々には「謝礼」なしでご協力、また、オカズ等のご協力くださる方もあり、今日まで続けられた。

平成21年2月『50回目』に早川一光先生に「ご講演」をお願いし大変多くの方々が喜んでくださった。その勢いで先生に「百回目」も頼みマッセとお願いしたら「生きてたら来る！」とのお返事。それが今回である。第百回、と言うことで第一部は9時～9時40分は「ロメオとジュリエットと佐渡文彦」さんの「懐かしい童謡・歌謡曲」を楽しんで貰いその後、9時40分～10時20分で「お粥」を食べ。第2部10時30分～11時30分は早川一光先生の「お話」の段取りだった。が、時間に先生が到着されない！。まさか？と思いながら電話をすると先生の声で「そや！今日やった！今から行く30分繋いどいて」です。仕方なし「ヨシイちゃん」が馬町爆撃や七条大橋百年でシャベリました。ヤットこられての「お話」は、ご自分の遅刻を逆手にとって「呆ける・ボケる」から始められ「子宮」に至る話で終わりました。その間会場は笑いが一杯。お話の後、皆さんの前で先生に「150回目も頼みマッセ」と言うと「ヨッシャ！」の一声。150回目は4年2ヶ月先のこと。その時私（ヨシイちゃん）85歳・先生95歳。頼む方も頼まれた方も、その時までは生きていると確信しているのだ。

5年先の約束確定

★更にその後、早川先生から二ヶ月に一度此処へきて「よろず相談」を受けても良いとのご提案を戴いた。でもお手伝いの方が要る。誰か？ご協力を。

どんつき

▽朝粥食べておシャベリ会で尖閣諸島（せんかくしょとう）は何処の国のもの？と質問された。会場はざわざわ！

▼続いては、竹島は日本のものか韓国か朝鮮のものか？とも聞かれた。同じように会場はざわざわだった。

▽先生は、どちらも日本のものではない。そして中国、韓国、朝鮮のものでもない。地球のものだ。とおっしゃった。

▼人類は威張っているけれど、地球の歴史からみたら新参者。魚や他の動物のほうがズーと先輩なのだ。と。

▽そのような気持ちを持てば国際紛争も戦争も起こらないと私は思う。世界中の人がそう思うようにしたい。

▼今の政治家は殆どが戦争を知らない世代。敗戦の年に生まれた人でも68歳だ。映画TVで知っても実体を感じないだろう。

▽疎開地で、家恋しで夜枕を濡らし戦後の飢えを知る人も少なくなり、自然を犠牲にし経済成長を伸ばす風潮は強い。

▼天地人という言葉はあってもその逆はない。天地を越えて人類のはない未来はない。

▽空想は出来ても、動物である限界は越えられまい。

ヨシィちゃんのひとりごと

時は今 天が下知る五月哉

ときはいま あめがしたしる さつきかな

明智光秀像（本徳寺蔵）

これは、本能寺の変（ほんのうじのへん）1582年6月21日（天正10・6月2日）、織田信長の家臣明智光秀が謀反を起こし、京都・本能寺に宿泊していた主君信長と後継者の信忠を襲い、自殺させたクーデター、主である織田信長を本能寺で殺した明智光秀の句です。光秀は土岐氏の出故に早くから暗殺も一つの生き残る手段と思ったようです。

人間、生きている間に「今決断をしなければ」という正念場に会うことが幾度かあります。勿論、そんな場面に一度も会わない「幸せ」な方も沢山居られるでしょうが、小さい問題で「二者選択」しなければならない場面は、山ほど出会って居るはずです。また、自分が直接では無くても、周辺の人の判断結果で、良・否の影響を受けることもママあることです。

私の場合、普通の夫婦間で生まれたのでなく父方の祖父母と母方の祖父母の話合いで「酒谷姓」になり育ちました。高校二年の時に初めてそれを知ったのです。それまで「母」と思っていた人が「母」でなかったのでショックはありましたが何か変な部分がある気がしていたことで納得しました。最初の「時は今」で、家業は継がないと決めたのです。口には出してませんが父も容認していたようです。

その後、父の経営する個人商店の酒問屋「酒谷本店」の経営危機を二度経験。破産しそうな酒小売会社の買収再建。等々幾度かの危機があり、うどん屋やコンビニに転換などを越えて来ました。どの場合も不思議なほどギリギリのところで救われることがあります。お陰でどうにかここまでやって来られました。何よりも最大の【時は今】は家内との出会いだったと思います。随分苦労をさせました。

「時は今」は個人の問題だけでなく、政治や経済などの決断でもあります。敗戦の決定がもう少し遅れたら京都に原爆が落ちたかも、ソ連軍が北海道を占領したかもです。そして、近々「憲法」になるかも。決めるのは私たちです！。「戦争か 平和か」どちらを**トロッキー**・（取る気か?）です。

愛が消える

石動敬子

「どの辺に住んでいるの?」と聞かれると高校駅伝のコース、烏丸紫明や植物園を口にして来た。還暦を機に職を引いたとき、植物園の無料パスを手にし、散歩圏が広がった。折りしも孫が誕生し何かにつけて通った。京都府民に限らず地球上の誰でも公的証明があればというのも気に入り、待ちあわせにも、通り抜けにも最適。日本一の入園数も誇りだった。愛がいっぱい咲いていた。

なのに七月からは七十歳未満は有料になるという。たかが二百円というなかれ、愛が消えたのだ。四十年近く働き税金を納めてきた。罰金のように容赦なく取り立てられて還暦ともなれば納めてきた分が還元されるのかと入場無料を喜んできた。実際幾ばくかを払い交通無料パスをついに手にした人たちは皆ヤハリ嬉しそうだ。こんな制度もいつまで続くか?と心配だ。

政治が冷えこんでいる中で、打ち出される強攻策の数々の甘い言葉には必ず本音という裏がありそうだ。一見当然そうな文脈、論理をまとって、表面を美しくコーティングされていても、だまされてはいけない。憲法26条9条も然り。

それを証拠に、被災地の人々の今がどのように政治に支えられているかを見るべきだろう。なんと補償や賠償請求にに時効などという制度が、それどころでない日々にふりかざされようとしている。

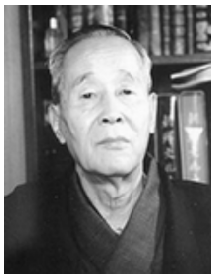
支持率の折れ線グラフ夏みかん

敬子

（追記）七月以降でも小学生までの保護者であれば無料とか。よし、今四歳の孫をいつも伴うように口説くことにしよう。

京に学びしころ・二

宇野正人



母校、立命館大学のお話しです。僕は文学部史学科日本史学専攻です。広小路学舎で学びました。授業は清心館が主でした。現存するのは、文学部と清心館（現衣笠学舎）だけです。まこと、時代は流転します。当時、総長は末川博先生でした。末川総長には、印象深い思い出があります。入学式のときの総長訓示は90分でした。

入学式式典の大部分が総長のお話しだったということです。これには驚きました。訓示内容も、高校を出たての学生としては、過激な発言をする人だ。大丈夫なのかなと思いました。また大学生になった気概も生まれました。当時新聞には、東大、京大、立命館の各総長の訓示概略が掲載され、必ず、各々が論壇で話題になりました。それを読んで、うちの総長は、すごいんだと感じ入った次第です。とある時、京都の市電に乗っていました。すると総長の大声が聞こえてきました。総長が立命の諸標をきた学生に対して、「君、お年寄りがいるじゃないか。席を立って譲りなさい」とおっしゃっています。みると、その女性、どうみても総長より若いではありませんか。総長、ご自分は若いと思っていらしゃったのでしょう。わたしは、噴き出してしまいました。

（続く）

編集者付記：この文を読み、末川総長の大声で思い出しました。立命館高校二年のころ講堂で先生のお話を聞いているとき一人が野次を飛ばした瞬間、それまで穏やかなお話しぶりでしたが講堂が揺れる程の「大声」で叱り付けられました。先生の講義は何度か潜り込んで、また、演説も再々お聞きしましたが、いつも穏やかで判りやすくお話をなさるお方でした。

京都&東山ぶらりピカリ 39

東山真葛ヶ原（まくずがはら）雙林寺（そうりんじ）

四月号で桜の名所円山公園を書いた。その公園を含む知恩院にかけての東山の山すそ一帯は、「**真葛ヶ原**」と呼ばれていた。その名は、真葛やすすきが生い茂る閑寂な地と青蓮院門跡であった慈円の、わが恋は　松を時雨の染めかねて　真葛ヶ原に風さわぐなり（新古今和歌集）が由来だとか。

そして円山公園のために土地を多く譲った寺「**雙林寺（駒札）**」には【金玉山と号する天台宗の寺とある。延暦年間（782～805）に尾張連定鑑（おわりのむらじじょうかん）が伝教大師・最澄（さいちょう）を開基に招じて創建したのが当寺の起こりと伝えられる。その後、鳥羽天皇の皇女入寺などもあって栄え、広い境内と多くの塔頭子院（たっちゅうしいん）を有したが、中世になって衰微するに至った。応永年間（1394～1427）に国阿上人（こくあしょうにん）が再興し、時宗一派の本山となり、東山道場と称したが、応仁の乱後再び衰え、明治維新のとき天台宗に改まった。更に、明治の中頃、円山公園が設置された際に多くの寺地を失い、現在は本堂の一宇にその名残をとどめるのみである。本堂に安置する木造薬師如来坐像（重要文化財）は平安時代の翻波式衣文（えもん）がよく表現されている。

この地には、かつて、西行（さいぎょう）、平康頼（たいらのやすより）、頓阿（とんあ）などが庵住したと伝えられ、本堂の南西飛地境内地には今も西行堂が建つ。また、豊臣秀吉もここで花見の宴を催したといわれる。東山区下河原鷲尾町526】と書かれている。

札所等京都十二薬師霊場7番

西行法師は、平安末期（元永元年(1118~1190)）建久元年の人で、「新古今集」代表的歌人の一人である。俗名を佐藤義清という鳥羽上皇の北面の武士だったが、保延6年（1114）に出家し諸国を行脚し自然の風光を愛した。この地に（西行草庵・写真）を営んだ。元は**雙林寺**境内だったが、公園で飛地となり分離されている。。

市電が走った京都を巡る 27

福田静二

堀川今出川を出た1号系統の市電は、歩を東に進めます。

少し行くと、今出川通りは斜めになり、室町通の手前でまた東西の通りに戻ります。幕末の頃の古地図を見ると、今出川通りは、小川通付近で終わり、そこから西には今出川通がありません。

今出川通を拡幅して市電を通す際、小川通付近から西は別の道路を拡幅して今出川通りとして、この間をつなぐ斜めの今出川通を造ったことが見て取れます。

また、今出川の由来は、相国寺の近くに今出川という川が流れていたことから来ています。

車窓に小さな商店が増えてくると、まもなく「今出川新町」の停留所に到着です。車窓からの街並みが変わってきたのは、この付近から、同志社大学のエリアに入ってきたことを示すものです。

学生相手の喫茶店、食堂、パチンコ屋と、さまざまな業種が連なります。最近通っても、市電時代と変わらない印象ですが、コンビニがあるのと、「激安弁当オール二百五十円」などと言った弁当店もあり、昨今の低価格時代を感じさせました。

今出川新町に到着した東行きの市電

斜めになった今出川通を行く市電

今出川新町から北へ約二百メートル行くと、同志社大学新町キャンパスがあります。四十年以上前、私が同志社大学生だった時代には、一・二回生の教養課程の授業が行われたところでした。今はありませんが、今出川新町下るには、体育館があり、体育の授業を受ける日は、今出川新町の交差点を行き来したものでした。

新町キャンパスには、新しいサークル棟などが建ったものの、正門付近の建物群は、四十年以上前と変わっていません。この場所は、もと日本電池があったところで、現在でも校舎の南側に「日本電池発祥地」と刻まれた自然石の石碑があり、あわせて「同志社大学旧臨光館（旧日本電池本社社屋）外壁の一部再現について」と題した副碑があります。

日本電池は、島津製作所の創業者・初代島津源蔵の長男で、二代目島津源蔵によって大正六年に設立され、鉛蓄電池をはじめ各種の電池を製造しました。

この地に置かれた本社は昭和十七年に京都市南区に移転、残った今出川工場も昭和三十四年に廃止になり、同志社大学の敷地となりました。

今出川新町の東には、上京区総合庁舎がありましたが、老朽化のため取り壊され、現在は更地になって、平成二十六年度を目指して新しい総合庁舎の新築工事が進められます。その間の仮庁舎は、今出川大宮上るの西陣小学校跡地にあります。

もと上京区民、いまも本籍は上京区にある私としては、何度も通ったところでした。地理的に見ても、上京区のほぼ中心、いわば上京区の〝ヘソ〟のような今出川新町です。

酒屋で生きて生かされて

第七十八話　三月が原点③

昭和30年1月1日付け株式会社酒谷本店に【酒類乙卸免許】が下りた。社長は父、一郎、専務は債権者代表の江井ヶ島酒造㈱の澤俊夫氏、取締役に三重県の菅野酒造家菅野景吉氏、監査役朝日麦酒京都支店長渋谷謹次氏の役員体制。社員は10名。配達用に自動三輪車二台でスタートした。

私も社員として参加した。一年目は赤字だったが翌年から黒字になり滋賀県にも得意先が増えた。順調になった。常勤のようにいた専務も元の会社に戻った。そのころから父が夜いなくなる。会社設立より前に弟妹の母と離婚し、祖母の住む【吉田】の家に預けている。住み込みの社員や私の食事は賄いのおばさんに任せ気楽な身になって、又、悪い女癖がでたようだった。

上司の目が離れると、社員の不正が起こりやすい。又やられた。同時に仕入先に渡した手形が、金貸しに回り銀行が融資を断ってきた。夜中目を覚まし天井をみると「手形一覧表」に見える程資金繰りに困った。今と違って接待した場合は銀行が【床の間】の前に座る時代だ。

綱渡りのような資金繰りでは、いずれは行き詰ると、父に債権者で株主の朝日麦酒に実情を述べ相談するように薦めた。結論は「舞鶴」にある「福井善四郎本店」の傘下に入れとでた。福井淳蔵社長は面識はあるが、父より若く業界では名うてのやり手だとの評判があった。父が何度か舞鶴へ出向き相談するが一向に返事がない。そこでもう一つの株主の江井ヶ島酒造に相談に父と共に行った。結果は同じ。「よし一挙に進めよう」と腹を決めた。

帰途、須磨駅で降り、父に早く福井さんに会って「息子が一月中にお返事がない場合は御社との話は無かったことにする。潰して処理をする」と覚悟しようと言っていると告げて欲しい言い。それには女連れでは行くなと付け加えた。父が驚いた顔をしたので「あんたはんのすることは見通してる」と笑った。一月中旬の須磨の浜辺は暖かく穏やか淡路島が霞んで見えた。父を思い出すといつもその時が浮かぶ。エエところもある親父だった。以後話はトントンと進展、700万円増資社長父代で提携した。私は常務取締役で残った。

★江井ヶ島酒造の酒・私の酒袋にある「日本（やまと）魂」

検索結果

月三　天（つきみ　てん）

今更書くことでもないが、国内・世界を見回して事件や問題が山積みになっている。かたや汚染・かたや税制・かたや島・かたや戦争・・・どれもこれも重要で、緊迫していて同時進行しなければならない問題ばかりだ。どの国もこの国もこれらの山で手が離せないし、尚も続く不景気に、国民一人一人が、要するに国全体が歯を食い縛って明日の光を得ようとしているため、他に目を向ける余裕も無い。というのに、この小説家、パソコン開くと呑気にこんなことを調べている。『世界の事件』。検索結果の一番上に挙がったのは、最近の時事ではなく、的が外れて今昔の連続殺人事件だった。しかし、これも興味深いから目を通してみることにする。

内容を読んでいる時の思考も感想も、実験が大好きな小説家が書くと、どれもこれも反感しかわかないだろう。ただ、小説家は一言「全部同じだ」と言い放って、途中で読むのを止めた。眠くなったからというのも一理ある。もう一つとあるとすれば、小説家は〝平和な小説家〟でいたいと願ったのだ。読むのを止めたくせに、小説家はじっとパソコンを見詰めている。画面には一人の囚人の顔写真が写し出されていて、笑っているくせに、笑っていないのだ。えらく満足している様に見えて、背伸びしているようにも取れて、どこまでも理解されない悲しみを抱えているとも感じる。彼を取り囲む空間には、空虚と蒼白、それに紛れて幼さが漂っていると、小説家はおもった。なぜそんな風に感じ取れるのだろう？

一瞬回路が活発になったが。考えた所でろくな事は無い。パソコンの横においてあるコーヒーカップを手に取った。

「〈検索結果〉世界の平和と世界の衝動は、意外と同時に起こるかもしれない」

小説家は、パソコンの画面を眺めながら、コーヒーカップに向かって呟いた。

すると、頭を掻いて、今度は大真面目に言う。「日が昇ったらゴミを出さねば。日々の平和を得るために、寝るか」

☆この文は、小説家を目指しているうら若き女性・筆名「月三　天＝つきみ・てん」さん（静岡県出身）がご協力下さいました。2Fのバイトさんです。既に出版された本があるそうです。

編集後記

○今月は朝粥会の百回目と七条大橋の百年橋渡りが重なり大変作業時間が少なくなりました。

●そこへ電話システムの故障、PCの故障も重なりました。その上治ったと思って油断した花粉症が追い討ちです。

○毎年3月に更新をお願いしている「サカタニ友の会」の会員さんのデーター入れ替え作業がプラスします。大忙しです。

●何とか1日にお届けをしようと頑張っています。只今30日の0時30分。今朝はいつも通り6時30分からファミマの仕事でした。

○勤務者には労働基準法があって時間制約はありますが、小さくても会社の経営者ですから、すべて自己責任になります。

●年中無休のコンビニを選んだのも私。「とんからりん」を発行したのも私。七条大橋を可哀そうだと思ったのも私。

○今はこんな私でも、幼いころは気の弱いおとなしい子でした。風が強いと外へ出られない。悪さも善行も出来ない子。これホンマ

●18歳で突然変異しました。世直し病に6年弱憧憬。その間に感動、感激、怒りも経験しました。影の薄かった変化に学友は驚きます。

○人間ていう動物は自分の意思で変わろうと思い続けたら変われる特性が有るのでしょう、か？。